優秀賞

大切な水を守るために

高岡市立牧野中学校　一年　湊　遥真

生き物が好きな僕と祖父は、よく海や川に生き物を探しに行った。きれいな透き通った川にはメダカがたくさんいて、そこを二人の秘密にして毎回行くのを楽しみにしていた。祖父が「昔はもっとたくさんメダカもいてな。今じゃホームセンターに売っとる時代やもんなー。水は生き物も生きていく上で大切にせんなんもんやちゃ。」と、気持ちよさそうにスイスイ泳ぐメダカを見ながら話をしてくれたことがある。また、家族で立山の昆虫博物館に行ったときは、近くに山のわき水が流れていて、両手ですくい飲んだ。汗だくで暑い夏だったこともあり、口に入れた瞬間、家族みんな顔を見合わせて「おいしいね。」と思わず笑顔になるくらい、冷たくて本当に美味しかったことを、今でも覚えている。どれも楽しい思い出だ。

きれいな水が必要なのは、人や海に住む生物も同じで、その水の大切さを知る為にも調べて考えてみようと思った。

僕が当たり前に飲んでいる水。世界では水道水が安全に飲める国は約五パーセントで、日本はこの五パーセントである。水がどれほど安全かは、国によってバラバラなのだ。

カンボジアの首都プノンペンでは、日本の北九州市上下水道局等の協力によって、水道の蛇口から直接飲むことができる安全な水が二十四時間供給されるようになり、それは「プノンペンの奇跡」と呼ばれている。日本では当たり前の日常が奇跡だとは、何とも言えない気持ちになった。僕は水泳を習っていたが、終わった後に飲む、あの喉をうるおしてくれる美味しい一杯の水も、当たり前ではないのだと改めて思った。

では、日ごろからどのようなことが、僕たちにはできるのだろうか。

生活している中で、日本ではお風呂の使用量が一番多いようなので、お風呂の残り湯を洗濯や洗車、植物への散水に使うことも、節水方法の一つである。僕の家には雨水タンクがあり、雨水を利用して花壇に散水したり雪を溶かしたりしている。今まであまり関心が無かったが、役立っているということがわかり、良い工夫だと知ることができた。北陸地方は降水量が多く、この方法が土地柄に合っているので取り入れている、と僕の家を建てたハウスメーカーの人から聞いたことがある。身近にも工夫していることがあるのだな、と関心をもつことができた。

日本は雨がたくさん降るからといって安心はできない。日本特有の急勾配の地形により、海や川へと一気に流れ出てしまうからだ。それを防ぐためにダムがあるが、安全な水への再利用はほんの一部だ。今後持続的に水不足におちいらないように考えると、僕たちが生活で最大限利用できる水の量は、世界平均の二分の一以下である。二〇三〇年までに、七億人が深刻な水不足で住む場所を追われるおそれがあるというから驚きだ。

チリの中央部では、気候変動と降水量の減少で湖が消えて干ばつに見舞われ、牛がわずかな草を食べていたり、動物が息絶えたりしている様子を見てゾッとした。遠い国だけの問題ではないと、初めて深く考えさせられた。

一つ一つの節水量はわずかなものもあるが、どの方法も、毎日続けることで一ヶ月、一年と長い目で見るとかなりの量が節水できるし、僕自身、家族でも何か一つでも始めてみることが大切だと思う。

人も、僕の好きな生物も、みんなが心豊かに幸せな将来を過ごせるように、当たり前だが毎日水を「大切」に使うことを忘れず、自然の恵に感謝して過ごしたい。地球の水は無限ではない。とても貴重な資源なのだから。